



TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

東京六本木ロータリー・クラブ



WEEKLY REPORT

風に向かって、風とともに

東京六本木ロータリー・クラブ会長

2012年10月15日発行 第331号

2012-2013年度 No. 11



本日のプログラム

平成24年10月15日 卓話 『指導者が領土を持ち出す時』 ジャーナリスト 小林 和男 様

プロフィール

1940年長野県生まれ。東京外語卒業後NHK記者、モスクワ支局長などロシア駐在11年。海外ウイークリー、NHKスペシャルキャスター。92年ソ連崩壊の報道で菊池賞受賞。

93年ロシアの客観報道でモスクワジャーナリスト同盟賞。08年ロシア文化への貢献でロシア政府ブーシキン勲章。解説主幹、作新学院大学教授を経て

現在作新学院顧問、サイトウ・キネン財団評議委員、日本エッセイストクラブ賞審査委員、日本民間外交推進協会日ロ経済文化委員。

著書「エルミタージュの綴帳」(日本エッセイストクラブ賞)「1プードの塩～ロシアで出会った人々～」「狐と狸と大統領」「白兎で知るロシア」「ブーチンと柔道の心」など。

クラブからのお知らせ [10月1日]

● 松島会長挨拶

- 早いもので、神無月となりました。俗説とは違って、「な」は「の」が訛ったという説が有力だそうです。そうすると「神の月」ということで、やはり五穀豊穫を祈願して神様が参集する月ということなのでしょうか。
- 東京駅がほぼ百年振りに元来の姿に修復されました。歴史を残しつつ、モダンな街づくりという最近の動きには共鳴しています。また、皇居から東京駅の上を抜けて東京湾に至る「風の道」が構想されるなど、環境にも優しい街づくりという点を評価したいと思います。
- 今年度、なんとか大過なく3ヶ月がすぎました。今後ともご叱正、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

● 関口幹事報告

- 「会員増強賞 スポンサーピン」のご案内

2012-13年度の会員増強目標に関しまして、佐久間ガバナー及び会員委員会の方針として、各クラブ3パーセント以上の純増を目標としています。つきましては、新会員をご紹介いただきました会員(スポンサー)に対しては、そのご努力に感謝し、佐久間ガバナーより「会員増強賞スponサーピン」が贈呈されますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 今村米山奨学委員長より

- 10月27日予定の第4回中国学友総会開催は、参加者の安全を鑑み来年3月に延期されました。
- 今月は米山強化月間です。
- 豆辞典を配布いたしました。また、特別寄付として会員おひとり1万円をお願いいたします。

● 松木親睦活動委員長より

- 夜間移動例会のアルバムが完成いたしました。回覧いたしまして、注文をお願いいたします。(3週間程受付)

● 斎藤社会奉仕委員長より

- 10月13日(土)東京国際映画祭六本木クリーンアップのお知らせ。六本木ヒルズ66広場に集合 10:00~11:30
今回は参加特典として映画祭オリジナルタオル&軍手をプレゼント致します。

● 山本新世代委員長より

- 芝商業高校インターンシップ受け入れ企業を引き続き募集しております。
実施日12月11日~12日(募集締め切り10月12日まで)

ゲストからのInformation

■地区会員委員会 会員増強・拡大委員会 委員長 石井義興様

本年6月「東京米山ロータリーEクラブ2750」がインターネットクラブとして東京で初、日本で3番目のクラブとして誕生いたしました。本日は、その認証状伝達式のご案内にクラブ会長と参りました。



■東京米山ロータリーEクラブ2750 会長 ディナ・ファオジア様

今回設立されたEクラブは、会員数28名(男女半々)、7カ国に渡り、平均年齢は37歳です。私も含め米山学友が12名おります。例会は24時間メイキャップ可能なHP例会と会員限定のビデオ例会の2つで構成されています。
11月18日、ホテルニューオータニでの認証状伝達式にご参加を宜しくお願い致します。





東京六本木ロータリー・クラブ

TOKYO
ROPPONGI
ROTARY CLUB

平成24年9月24日
卓話 『新聞の新たな可能性を探る
～「GLOBE」の挑戦～』

朝日新聞編集委員（前GLOBE編集長）

山脇 岳志 様

今日は新聞全体をめぐる状況と、月2回発行している朝日新聞の日曜版、GLOBEについてご説明します。

まず新聞ですが発行部数は毎年減っていて、全国、全ての新聞で2000年の5400万部が今は5000万部と、10年で400万部落ちています。電通によれば、媒体別の広告費は全体的に右肩下がり。伸びているのはインターネット広告で、2011年推計で約8000億円。新聞は1990年頃には1兆4000億円近くあったのが今では6000億に減っています。新聞に身を置く者として残念ですが、そのメディアの影響力に対するクライアントの方々の評価の結果だと思います。部数でみると、全国紙の部数1位は読売新聞で約1000万部弱。朝日新聞が770万。そして毎日、日経、産経の順番となっています。

我々は新聞（本紙）を毎日発行しているのに、なぜGLOBEを創刊したのか。「ブランド力の向上」が社から与えられた命題でした。ネット時代にニュースをタダで知ることができるようになったことが新聞にとっての最大の危機で、アメリカでは新聞社が数多く破たんし、20年前に比べて2割以上減っています。そういう中で逆にお金を払ってもいいと思っていただくにはどうしたらいいか。結局のところ、長期的で深く、多角的な報道が必要だと考えました。新聞はいろんな分野のニュースが万遍なく並んでいるけれど、それでは満足しない

読者の方々も増えている。新聞の最大の役割が「権力の監視」にあることは変わりませんが、政府の方針に何でもかんでも反対していればいいという時代ではなくなり、本当によい政策は何か、新聞としても真剣に考える必要があります。そのためには、物事を過度に単純化せず、複雑なことは複雑なものとして読者にお伝えすることも重要だと考えました。



GLOBEのコンセプトは3つあります。名前の通り「グローバルな視点」、そして、「現場からの視点」。学者ではないので、とにかく現場に記者が行ってみる。そして「リアリズムの視点」です。結論が先にあるような報道ではなく、イデオロギー的な発想を避けることです。

日々のニュースを追いかける本紙と違ってGLOBEは時間をかけて制作するため、特集のテーマは、3~6か月前のデスク会で決め、ブレーンストーミングを全員でやり、記者が執筆した原稿をデスクが修正し、さらに輪読会で、デスクや筆者が相互に批判するというプロセスを踏んでいます。そのすべてに編集長が関与しています。

GLOBEは苦境にある新聞のささやかな試みの一つですが、今後も我々なりに挑戦を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。



2012～2013年度 第4回理事会報告

【審議事項】

①新会員候補者の入会審査の件

会員選考委員会からの報告を受けて、末松亞斗夢氏の入会について、審議を行なったところ満場一致にて可決された。本日より10日間を会員からの異議申立期間とし、会員からの異議がなく入会が承認された場合、入会日は11月1日とする。

②ニコニコシール制作及び予算計上・支出の件

東京西RCでも行なわれている、ニコニコへの寄付者に対するニコニコシールの提供を当クラブでも行いたい。そこで、ニコニコシールの制作及び制作費用の予算計上・支出について審議を行なったところ満場一致にて可決された。

【その他】

平松会長エレクトより10月29日の例会後に臨時理事会開催の申し出があり、承認された。

米山記念奨学会の祖「米山梅吉」

10月は米山月間です。この機会にあらためて米山記念奨学会の原点である「米山梅吉」を紹介します。

米山記念奨学会とは？

米山奨学事業は、日本最初のロータリー・クラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリー・クラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省（現在の文部科学省）の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

奉仕の人「米山梅吉」

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏（1868～1946）は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー（カリフォルニア州）ウエスレーン大学（オハイオ州）シラキュース大学（ニューヨーク州）で8年間の苦学の留学生活を送りました。

帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を"社会への貢献"とするなど、今日でいうフィランソロピー（Philanthropy）の基盤を作りました。



晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”的精神を身をもって行いつつ、そのことについて多くを語らなかつた陰徳の人でした。

世界の平和を願って —なぜ留学生支援なのか—

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」——。事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。

それから50年以上の歳月が流れましたが、“民間外交として世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学会の使命は一貫して変わっていません。むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えると、その使命はますます重要性を増しているのではないかでしょうか。

留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

（公益社団法人ロータリー米山記念奨学会Webサイトより転載）



例会日》月曜日 12:30 – 13:30 例会場》グランドハイアット東京 (TEL : 03-4333-1234)



■ ■ ニコニコBOX情報

天野 彰さん(東京世田谷南RC)

台風一過秋晴れと共に参上致しました。山中元会長と同期の会長時代以来3年ぶり?となります。今日はタキさんにお逢いしに参りました。タキさんと同じオレゴン大学アートを卒業しました、娘八寿花(ヤスカ)です。

平松 和也さん

今月は私の誕生日です。今年は還暦の年でもあります。後20年はゴルフを続けたいと、家内と話しています。

山中 祥弘さん

加藤様の卓話、楽しみにしていました。笄小学校の校長先生をお招きいたしました。

小笠 裕子さん

加藤様、本日の卓話を楽しみにまいりました。よろしくお願ひ申し上げます。

関口 明博さん

本年度も第2クオーターに入りました。益々の例会ご出席と新入会員のご紹介をお願い申し上げます。

中川 勉さん

台風一過さわやかですね。

松島 正之さん

タキさん、今日はありがとうございます。オードリー・ヘップバーンの話、楽しみにしています。

小竹 直隆さん

江戸城天守の模型がIMF世銀総会の日本政府広報コーナーに展示されることが正式決定しました。皆さまのご支援のお蔭と感謝しています。

苅田 吉夫さん

大台風が通過しましたが皆様大丈夫でしたか。小生自宅にこもっていました。

安井 悅子さん

加藤タキ様、本日の卓話をとても楽しみにしておりました。どうぞよろしくお願ひ致します。

浅田 豊久さん

10月1日は東京都民の日、皆で祝いましょう。

山本 良樹さん

明日、妻の誕生日です。

渡邊 滋さん

陽が短かくなりましたね。
「秋の日のすんずと暮れて花芒」 夏目成美

10月1日 合 計 56,000円

累 計 497,000円

10月お誕生月の会員

松木隆央さん 門田真乍子さん

平松和也さん 三田大介さん

中島信二さん(例会は欠席)



『今週の言葉』

In vino veritas (ワインには真理が宿る)

ラテンの成句。中国には、「酒後吐真言」、バビロンのタルムードにも「ワインが入れば、秘密は出していく」という言い回しがあり、古今東西に共通する思いだ。酒が入って、酔いが回れば、上手に嘘はつけない。酒席の会話に本音ができる。飲みニケーションの効用だ。講釈はやめて、さあワインを飲みに行こう。

(松島正之会長)

■ ■ 次回のプログラム

平成24年10月22日

第2回クラブ協議会

『イニシエーションスピーチ』

高柳 公康 様

10月1日の例会出席率 (暫定)

・会員の例会出席数(出席率) 37名 (79%)

・ゲスト・ビジターの参加者数 10名

※ メーキャップを含めていない暫定の人数です。



森の町内会
間伐に寄与する紙
www.mori-cho.org

この印刷に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます

東京六本木ロータリー・クラブ

会長 松島 正之

幹事 関口 明博

広報・週報
委員長

安井 悅子

広報・週報
副委員長

渡辺 美智子